

令和元年6月21日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15H03275

研究課題名(和文)新発見絵画資料による近代日本の学術史とスウェン・ヘディンに関する多分野横断的研究

研究課題名(英文) Cross-disciplinary study of sciences and Sven Hedin in modern Japan using newly found pictorial materials

研究代表者

杉浦 和子 (SUGIURA, KAZUKO)

京都大学・文学研究科・教授

研究者番号：50155115

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,300,000円

研究成果の概要(和文)：京都大学文学部地理学教室に残されていた「中央アジア 地形風俗 模写」と墨書きされたヘディン原画の模写60点に関する分野横断的な共同調査を行った。これにより、得られた大きな成果は次の2点である。(1)ヘディンによる原画と関西美術院の画学生たちによるヘディン原画の模写と現地写真を、1世紀前にヘディンが描いたチベットと現在のチベットを対比させることにより、不変/変化を明らかにした。(2)1908年の「世界の大探検家」による来日を引き起こした、学術探検の黎明期にあった京都帝国大学を舞台とする国際的な学術・芸術の交流の熱気を帯びた様相と、ヘディンが受けた東洋学への刺激を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

1908年冬、世界的な探検家スウェン・ヘディンを京都に迎え、最新のチベット情報に触れる人々やヘディン原画を模写した四人の若い画学生たちなど、ヘディンの訪問は、さまざまな学術や芸術の分野の人々に大きなインパクトを与えた。ヘディンもまた、初めて滞在した京都で、漢籍の与える地理的情報に強く興味をひかれた。1908年、ヘディンの来訪が引き起こした多くの出会いと交流は、未知のものへの強い好奇心や、新しい活動につながるエネルギーをかきたてる力を持っていたかもしれない。20世紀初頭、中央アジアを介して生まれたヨーロッパと日本の学術・芸術の邂逅と交流には、21世紀の今にも通ずる意義と魅力がある。

研究成果の概要(英文)：Our joint research on the sixty pictorial materials, which were later identified to be reproductions from Sven Hedin's original paintings and sketches, was achieved as a cross-disciplinary study. The two major findings were obtained: (1) Comparison of Sven Hedin's original drawings, reproductions discovered in the Geography Department of Kyoto University clarified the changed and unchanged in Tibetan landscapes, people and culture during the last one century. (2) Hedin's 1908 visit to modern Japan caused international and interdisciplinary exchanges at Kyoto Imperial University. Academics and artists were enthusiastically involved the exchanges, and Hedin also stimulated by his interest in Oriental studies.

研究分野：人文地理学

キーワード：地理思想・方法論 近代学術史 東洋学 科学的探検 スウェン・ヘディン 絵画 チベット 京都帝国大学

1. 研究開始当初の背景

本研究計画のきっかけは、2014年に入り、研究代表者の所属する京都大学文学部地理学教室の所蔵資料の整理の過程でスケッチと水彩画60点が発見され、スウェン・ヘディン自身が中央アジア探検(1905-1908)で描いた原画の模写であることが明らかになったことである。模写作品には、ヘディンの手による可能性のあるメモ書きが添えられていること、入手できる画像資料のきわめて少ない1世紀前のチベットの地形環境や風俗文化を精密に生き生きと描いたものである点で、学術史、地域史また、美術史の面でも、非常に重要な意義をもつ学術資料である(図1は、模写作品の1つ)。そこで、地理学、人類学、中国学、チベット地域研究、日本美術史の研究者たちが集まり、この資料の分析と活用を目指す学際的なプロジェクトを企画することになった。プロジェクト準備として、研究代表者が予備的な調査の報告をまとめた(田中2015 人文地理、67(1):57-70)。



図 模写作品の1つ

近代地理学史の研究では、1908年のヘディンの訪日すら、ほとんど忘れられ、研究の対象とはされていない。他方、最近のヘディン研究では、彼の探検とその成果の歴史的な位置づけや意義を探る試みにウェイトがおかれている。また、チベットに関しては、仏典研究は進められているものの、入域が困難なため、地域調査の蓄積は少ない。また、ヘディンの膨大な探検資料、日記や書簡、スケッチなどの大部分は、ストックホルムの民族学博物館で保管されており、ボン大学の研究グループによって調査が行われたが、全容解明には至っていない。

京都大学地理学教室所蔵のヘディンの絵の模写作品は、既往の地理学史や美術史、ヘディン研究では取り上げられたことのない資料であることに加え、模写という範疇を超えた高い芸術性を有するものである。この新発見資料を共通の調査素材として、絵に描かれたチベットの今昔の比較を通じた異文化表象・異民族記述の意識変容、近代における探検から学術(地理学、人類学)への移行、模写作業の実現の背後にある学術と芸術の柔軟な関わり合い、近代の国際交流と日本の学術の独自の展開、近代洋画の黎明期における技法と異文化表象の学習と理解、といったさまざまなテーマの研究に取り組むことにより、近代日本の学術史・芸術史に新たな光を当てることができる。この視点から、本プロジェクトに取り組むこととした。

2. 研究の目的

20世紀初頭の日本における近代への「移行」および「転換」の諸相と特質の解明は、政治史や社会史のみならず、学術史、芸術史、地域史の研究においてもきわめて重要な意義を有する。本研究計画の課題は、(A)20世紀初頭、創設間もない京都帝国大学文科大学地理学教室を拠点にくりひろげられた探検家スウェン・ヘディンと学術・芸術の諸分野にかかわる人々との邂逅と交流の多面性を解明すること、(B)ヘディンが描いたチベットと今日のチベットとの比較参照に基づいて、異文化表象や民族誌記述の変容を析出することの2点である。これらを達成することにより、一世紀前のヘディン訪問が近代日本の学術・芸術・社会に与えたインパクトとそ

の意義を再評価することが、本研究の目的である。

3. 研究の方法

- (1) (2015年5月以降2018年まで継続) **資料調査**：ヘディンの京都滞在期間中の交遊資料の調査を行い、鹿子木孟郎夫人の日記や知人名簿、新聞記事を収集(木津、杉浦)。近代学術史・京都洋画史・チベット史・探検史などの関係文献の収集と整理(松田、水野、木津、池田、杉浦、協力：平野重光)。
- (2) (2015年11月5日) ヘディンの翻訳ならびに研究の第一人者である、**金子民雄氏にインタビュー**(田中)。
- (3) (2015年11月22-30日)**ストックホルムの民族学博物館に所蔵されている資料を調査**した(杉浦、松田、水野、木津、池田、協力：Håkan Wahlquist)。ヘディンの原資料(スケッチ、新聞記事のスクラップブック、フィールドノート、地図の下図など)の閲覧と複写、撮影。ヘディンの絵画模写60点のうち、原画49点の所在を確認し、メモの筆跡を照合。
- (4) (2015年12月17日) **研究会1**：平野重光(講師)「近代京都における洋画界と洋画教育」
- (5) (2015年12月19日) **研究会2**：金子民雄(講師)「ヘディンの生涯 探検と政治」
- (6) (2016年3月9日)：**千葉県立図書館で近代洋画に関する文献調査**(田中)
- (7) (2016年6月15日)：**研究会3**：白須浄眞(講師)「チベット探検をめぐる近代の国際政治と日本社会：大谷光瑞とヘディン」
- (8) (2016年8月3-22日)：**チベット調査・撮影**(池田・佐藤兼永(写真家))ラサ、シガツェ、ギャンツェでヘディンが踏査したルートの確認とスケッチした地点と事物を比定し、写真撮影。地形や風俗、建物等の現況調査ならびに民族誌・チベット史等に関する文献資料を閲覧・収集。
- (9) (2016年10月18日)：**研究会4**：池田巧(講師)「チベット写真の上映会 1世紀前にヘディンが描いた場所の現在」
- (10) (2016年10月26日)：**研究会5**：Håkan Wahlquist(講師)「写真家/画家/地図学者としてのヘディン」；高本康子(講師)「近代日本におけるチベット像の形成」
- (11) (2017年1月10日)：**研究会6**：佐藤兼永(講師)「チベット写真の上映会 写真家の眼」
- (12) (2017年5月30日-6月4日)**ストックホルムの民族学博物館・国立文書館・国立図書館において調査ならびに研究打ち合わせ**(田中)。展覧会に借用する資料と状態の確認とデジタル化の交渉。ヘディンの *Southern Tibet* の手稿および日本人からの書簡の調査と資料収集。

4. 研究成果

- (1) (2016年12月3日) **シンポジウム「近代日本における学術と芸術の邂逅 ヘディンのチベット探検と京都帝国大学訪問」**(京都大学大学院文学研究科(以文会協賛))

ヘディンと彼が探検したチベットに焦点を当て、彼の来日頃から今日までの一世紀という時間軸のなかで、多面的な検討が行われた(個々の研究発表は、5.「主な発表論文等」を参照)。ヘディンの多彩な才能、チベットへの好奇心、絵という視覚的な媒体といった要素が相まって、学術や芸術の諸分野での活発な交流を刺激したことが明らかにされた。参加者は約80名。

- (2) (2017年12月5日-17日) **展覧会『20世紀初頭、京都における科学と人文学と芸術の邂逅 スウェン・ヘディンがチベットで描いた絵と京都帝国大学文科大学に残された遺産』**[会場]京都大学百周年時計台記念館1階企画展示室；[主催]京都大学大学院文学研究科主催；[後援]スウェーデン大使館(東京)；[協力]The Sven Hedin Foundation)。

新聞4紙(朝日(2017.12.7)、毎日(2017.12.6)、読売(2017.12.7)、京都(2017.12.7))お

よび、朝日新聞 デジタル版(20171207)に紹介記事が掲載された。入場者数は2,151人。

1908年のヘディンによる京都訪問とその際にかかれた展覧会の様子を伝え、さらに、展覧会をきっかけに生まれた60点の模写作品や、漢籍を介したヘディンと文科大学の教員たちとの交流の一端が紹介された。展示は、1908年の展覧会の一部再現コーナー、チベットを描いたヘディンの原画と模写、現在の写真を組み合わせたコーナー、ディンの原画が散逸し、模写のみが残る11点を展示したコーナーから構成された(出展資料は、5。「主な発表論文等」を参照)。

(3) (2017年12月12日) **展覧会にかかわる公開講演会『20世紀初頭、京都における科学と人文学と芸術の邂逅 スウェン・ヘディンがチベットで描いた絵と京都帝国大学文科大学に残された遺産』** [会場]: 時計台記念館会議室。来賓挨拶: Magnus Robach 駐日スウェーデン大使。学内外から45人が参加。(個々の研究発表については、5。「主な発表論文等」を参照)。

(4) 二カ国語で「写真集・報告書」を刊行。

田中和子編; 佐藤兼永(撮影)『探検家ヘディンと京都大学: 残された60枚の模写が語るもの』 京都: 京都大学学術出版会(2018年3月30日)(278p: 挿図, 肖像, 地図; 30cm)

Tanaka Kazuko ed.; photography by Sato Ken'ei. 2019. The explorer Sven Hedin and Kyoto University: Central Asia fosters East-West cultural exchange. Kyoto: Kyoto University Press & Melbourne: Trans Pacific Press. (xiv, 258 p.: ill. (some col.), col. maps; 30 cm)

1908年、中央アジア探検を終えたスウェン・ヘディンが初来日し、京都帝国大学を訪れた。京都大学に残されたヘディンのスケッチと水彩画の模写60点を完全掲載し、1世紀前にヘディンが歩いたチベットの姿を描き出すとともに、「世界の大探検家」の到来は、学術探検の黎明期にあった近代日本にどのような影響を与えたか、京都で繰り広げられた学術と芸術の多様な交流を明らかにした。(収録論文は、5。「主な発表論文等」を参照)。

日本語版の刊行について、新聞3紙(朝日(2018.5.31)、毎日(2018.5.8)、京都(2018.5.28))ならびに毎日新聞のデジタル版(The Mainichi 20180508; 毎日新聞 20180528)、朝日新聞のデジタル版(20180601)で、紹介された。

5. 主な発表論文等

(____ 研究代表者; ____ 研究分担者; ____ 研究協力者)

[図書](計2件)および[同書掲載論文等](計37(研究組織の構成員が関わるもの))

(1) **田中和子編; 佐藤兼永(撮影) 2018. 『探検家ヘディンと京都大学: 残された60枚の模写が語るもの』** 京都: 京都大学学術出版会。

まえがき [田中和子] / ヘディンの探検ルートとキャンプ地(1906-1908年) [田中和子]
第 編 図 録 残された模写とヘディンの原画、現代のチベット / 序章 百年前の模写に描かれていたチベット、そしてヘディンへの追走 [池田巧] (8-13) / 1章 タシルンボ大僧院 [池田巧] (14-49) / 2章 シガツェの人々 [池田巧] (50-63) / 3章 トランスヒマラヤ [池田巧] (64-71) / 4章 チベット人 [池田巧] (72-115) / 5章 チベットの寺と僧院 [池田巧] (116-139) / 模写60点とそれらの原画およびヘディンによる著作中の挿絵等の対応リスト [池田巧・田中和子] (140-145) / 【コラム】ヘディンの見たチベットと私の見た「チベット」 [水野一晴] (146-151)

第 編 報告集 近代日本とヘディンのチベット探検 / 1章 探検大学の源流 [山極壽一] (155-157) / 2章 1908年、京都におけるヘディン歓迎行事とその特質 京都帝国大学と文科大学と東洋学 [田中和子] 158-169 / 3章 ヘディンによる京都滞在の遺産 京都大学に残されたヘディン原画の模写 [田中和子] (170-178) / 【コラム】ヘディンは大阪で何を見たのか: 鳴らずの釣鐘異聞 [出口康夫] (179-181) / 4章 20世紀初頭の国際政治社会と日本 大谷光瑞とスウェン・ヘディンとの関係を中心として [白須浄真] (183-195) / 5章 ヘディン・インパクト 近現代日本人の「ヘディン」 [高本康子] (196-204) / 6章 探検・科学・異文化理解 ヘディンの軌跡を通して考える [松田素二] (205-216) / 【コラム】ヘディンの具足 [田中和子] (218-219) / 7章 芸術家ならびに写真家としてのスウェン・ヘディン 19世紀と20世紀における絵と地図にかかわる技法の拡張 [ホーカン・ヴォルケスト / 田中和子(訳)] (221-236) / 8章 ヘディンと漢籍 [木津祐子 / 田中和子] 237-248 / 【コラム】ヘディンの「中央アジア 地形 風俗」画の模写を見て [平野重光] (249-253) / 付録1 プラマプトラとサトレジの水源に関する

る『水道提綱』の記述を引用した“*Southern Tibet*”のテキストおよび和訳 田中和子 [254-265) / 付録2 齊召南著『水道提綱』巻二十二 訳注 [木津祐子] (266-270) / 附表 ブラマブトラとサトレジの水源域の記述にかかわる地名一覧表 [木津祐子・田中和子・池田 巧] (271-275) / 付図 ブラマブトラとサトレジの水源域の水系と山岳 [田中和子] (276)

(2) Tanaka Kazuko ed.; photography by Sato Ken'ei. 2019. The explorer Sven Hedin and Kyoto University: Central Asia fosters East-West cultural exchange. Kyoto: Kyoto University Press & Melbourne: Trans Pacific Press.

Foreword [Tanaka Kazuko] (xi-xii) / Map: Sven Hedin's route and camp [Tanaka Kazuko] (xiv)
Section I: Album: Sven Hedin's Original Drawings, Reproductions Discovered in the Department of Geography, and Images of Tibet a Century Thereafter / Preface [Ikeda Takumi] (2-9) / 1 Tashi Lhunpo Monastery [Ikeda Takumi] (10-47) / 2 People of Shigatse [Ikeda Takumi] (48-61) / 3 Trans-Himalaya [Ikeda Takumi] (62-69) 6 / 4 Tibetans [Ikeda Takumi] (70-113) / 5 Tibetan Temple Monasteries [Ikeda Takumi] (114-135) / Epilogue [Ikeda Takumi] (136-137) / Supplementary Table: List of Reproductions, Original Artworks, and Illustrations in Hedin's Books, etc. [Ikeda Takumi & Tanaka Kazuko] (138-143)
Section II: Reports: Hedin's Tibetan Expedition and Modern Japan / 1 The Headwaters of the “Exploration University” [Yamagiwa Juichi] (147-151) / 2 Hedin's Reception in Kyoto, 1908 [Tanaka Kazuko] (152-170) / 3 The Legacy of Sven Hedin's Stay in Kyoto: Reproductions of Original Art by Hedin Left at Kyoto University [Tanaka Kazuko] (171-182) / 4 Exploration, Science, and Understanding Others: Thinking Through Hedin's Trajectory [Matsuda Motoji] (183-198) / 5 Sven Hedin as Artist and Photographer: Extending the techniques of cartography and illustration at the turn of the last century [Håkan Wahlquist] (199-216) / 6 Hedin and Classic Chinese Texts [Kizu Yuko & Tanaka Kazuko] (217-233) / Column 1: Hedin's Suit of Armor [Tanaka Kazuko] (234-236) / Column 2: What did Hedin See in Osaka? An Unsung Episode of Unringable Bell [Deguchi Yasuo] (237-239) / Appendix 1: “Chapter XII. The Shui-Tao-Ti-Kang On the Source of the Brahmaputra and the Satlej.” (Hedin 1917, vol. 1, Chapter 12: 114 -122) [Tanaka Kazuko] (240-246) / Appendix 2: “水道提綱 巻二十二” (Shuidao tigang [Guide to the Network of Waterways], Volume 22nd) [Kizu Yuko] (247-249) / Appendix 3: List of place names relating to the description of Brahmaputra and Sutlej headwater regions [Kizu Yuko & Tanaka Kazuko] (250-255) / Appendix 4: Map of the water systems and mountains in the headwater areas of the Brahmaputra and Sutlej Rivers [Tanaka Kazuko] (256)

【雑誌記事】(計 1 件)

(1) 田中和子 2017. 2016年度京都大学文学研究科・文学部(以文会協賛)公開シンポジウムの報告:近代日本における学術と芸術の邂逅 ヘディンのチベット探検と京都帝国大学訪問」以文 60号、43-45頁。(査読なし)

【口頭発表】(計 8 件(研究組織の構成員が関わるもの))

(1) 京都大学文学研究科・文学部(以文会協賛)公開シンポジウム「近代日本における学術と芸術の邂逅 ヘディンのチベット探検と京都帝国大学訪問」(2016年12月3日開催; [会場]文学部第3講義室)

田中和子: 1908年、ヘディンの京都訪問による遺産とその意義 京都大学文学部地理学教室に残された模写作品

Håkan Wahlquist: Sven Hedin as artist and photographer: extending the techniques of cartography at the turn of the last century

白須浄眞: 20世紀初頭の国際政治と日本 大谷光瑞とスウェン・ヘディン

高本康子: 近代日本人と「ヘディン」

松田素二: 探検・科学・異文化理解 ヘディンの軌跡を通して考える

池田巧: スウェン・ヘディンの見たチベット: そして109年後の現在

田中和子: 総括

(2) 講演会『20世紀初頭、京都における科学と人文学と芸術の邂逅 スウェン・ヘディンがチベットで描いた絵と京都帝国大学文科大学に残された遺産』(京都大学文学研究科主催、2017年12月12日開催; [会場]京都大学百周年時計台記念館 2階 会議室)

田中和子: ヘディンと文科大学

池田巧: スウェン・ヘディンの見たチベットと現在のチベット

〔展覧会〕(計 1 件)

(1) 『20世紀初頭、京都における科学と人文学と芸術の邂逅 スウェン・ヘディンがチベットで描いた絵と京都帝国大学文科大学に残された遺産』、[開催期間] 2017年12月5日-17日; [会場] 京都大学百周年時計台記念館1階企画展示室; [主催] 京都大学大学院文学研究科主催; [後援] スウェーデン大使館(東京); [協力] The Sven Hedin Foundation)。

主な展示資料: 写真8点(うち2点はThe Sven Hedin Foundation提供)、地図2点、書籍9点(京都大学・文学研究科図書館所蔵)、ヘディンのオリジナル画6点(Etnografiska Museet/Statens Museer för Världskultur所蔵)、ヘディン原画を模写した作品17点(京都大学大学院文学研究科地理学専修所蔵)。

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名: 水野 一晴

ローマ字氏名: **MIZUNO, Kazuharu**

所属研究機関: 京都大学

部局名: 文学研究科

職名: 教授

研究者番号: 10293929

研究分担者氏名: 松田 素二

ローマ字氏名: **MATSUDA, Motoji**

所属研究機関: 京都大学

部局名: 文学研究科

職名: 教授

研究者番号: 50173852

研究分担者氏名: 木津 祐子

ローマ字氏名: **KIZU, Yuko**

所属研究機関: 京都大学

部局名: 文学研究科

職名: 教授

研究者番号: 90242990

研究分担者氏名: 池田 巧

ローマ字氏名: **IKEDA, Takumi**

所属研究機関: 京都大学

部局名: 人文科学研究所

職名: 教授

研究者番号: 90259250

(2) 研究協力者

研究協力者氏名: Håkan, Wahlquist

ローマ字氏名: Håkan, Wahlquist

研究協力者氏名: 平野 重光

ローマ字氏名: HIRANO, Shigemitsu

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。